

妊娠中や3歳未満の子どもを育てている女性を支援する登録制「ママサポートタクシー」の運行を、第一交通産業グループが29日から、京都府内の一部地域で始める。すでに府助産師会による研修を実施し、乗務員が、陣痛に見舞われたり新生児を抱えたりする女性を送迎する際の手順や気配りを学んだ。

29日から第一交通産業タクシー

同タクシーは主に妊婦の陣痛や定期検診、子どもの急な発熱や買物の際の送迎サービスを担う。車内に防水シートやバスタオルを準備し、24時間対応で優先配車する。利用者は事前にかかりつけの病院や自宅の住所を登録する。

今夏にタクシー会社が10日間実施した研修には、計約420人が参加した。助産師が講師となり、人形を使って妊娠期の体の変化や産後の症状、精神面の不安定などを講義し、

同タクシー内での対応も具体的に説明した。実習では乗務員たちがグループに分かれ、陣痛時や出産後の女性を運ぶ際の乗降シミュレーションや妊婦を疑似体験できるジャケットを着用した。

同様のサービスを実施するタクシー会社は府内にほかにあるが、府助産師会が講師となるのは初めてという。同会の越山茂代副会長は「妊婦や出産直後の女性は精神的に不安定で、乗務員に一言声をかけてもらうだけ

助産師指導で ママ送迎支援

妊娠・子育て中の検診や買い物

乗務員、手順や気配り学ぶ

でも大きな力となる。サービスがもっと広がってほしい」と語る。

同グループは6月末現在、74都市で同タクシーの運行を実施。マササポートタクシーは中京各区と東山区南部のほか、向日、八幡、約4万2千人が登録し、約6万件の利用実績があるという。陣痛件で、うち出産例は2時の利用は約3200件あった。(寺内 蘭)



助産師の助言を受けながら、タクシーの乗降シミュレーションをする乗務員 (京都市伏見区)



船頭の技と心

⑬ 保津川下り400年

水寄せ

角倉了以の開削工事、く浅いところ、めて川幅をせるとあり、に工夫を凝らして、石を集めて、今も目にすき、瀬や大きな箇所を、これら、これは「イシジ